



第2回千葉大学-UC San Diego国際共同研究シンポジウム ー粘膜免疫、アレルギー、ワクチンーが開催されました。

千葉大学とUC San Diegoは、平成30年3月28日、29日に共同研究の成果を発表するシンポジウムを2日間にわたって開催しました。

シンポジウムは、平成28年3月に日米双方に設置された国際研究拠点「粘膜免疫治療学・ワクチン開発研究センター（Center for Mucosal Immunology, Allergy and Vaccine: cMAV）」で進められている共同研究の成果に関する講演やポスター発表が行われ、昨年度に引き続き、第2回目となるものです。

2日目のシンポジウム冒頭では、徳久剛史千葉大学長、David Brenner UC San Diego副学長が登壇、医学の飛躍的な発展に向けた両大学の取り組みについての抱負が述べられ、西井知紀文部科学省学術機関課長より、海外の大学との強固な研究体制の構築が重要であり、両大学の活動がそのけん引となるよう期待が述べられました。

基調講演では鈴木寛文部科学大臣補佐官が登壇し、両大学の研究の先進性が強調され、両大学の交流についてエールが送られました。

両大学の国際研究拠点となるセンター（cMAV）では、現在の注射型ワクチンに代わり、病原体の入り口となる気道や腸管など粘膜面の免疫力活性化を図る経口型予防ワクチンによる、革新的治療学の確立を目指しており、両大学における全く新しい国際共同研究の創出が期待されています。



パネルディスカッションの参加者：

前列右より、徳久剛史千葉大学学長、鈴木寛文部科学大臣補佐官、
David Brenner UC San Diego副学長、Peter Ernst cMAV San Diego研究センター 共同センター長、
Mitchell Kronenberg ラホヤアレルギー免疫センター所長、Stephen Hedrick UC San Diego教授、
後列右より、中谷晴昭千葉大学理事、中山俊憲千葉大学副学長、清野宏cMAVサンディエゴセンター長